

平成 25 年度  
事業報告書

社会福祉法人 千鳥会

## 千鳥会法人本部

### 平成 25 年度 法人総括

平成 25 年度は、今後 10 年間の法人運営を進めていく上で、安定した経営、運営を行うとともに、法人が持つ堅実性、多様性、専門性を発揮し、様々な介護・福祉のニーズに応えるべく、新たな取り組みも検討・実施して参りました。

「サービスの質の向上〔研修管理〕」「利用者状況」「地域貢献〔地域課題の発見〕」

「人材育成〔E S 管理〕の充実」「新規事業〔施設整備〕計画」「代替エネルギー参画」

「I S O 管理」を平成 25 年度の重点課題として掲げ、利用者、地域、行政等の各関係機関により一層信頼される社会福祉法人となるよう取り組みを進めて参りました。

その結果、利用者・家族・地域の方からも信頼され、更なるサービス向上につながって参りました。

### 平成 26 年度への課題及び展望

介護保険制度が始まって 13 年が経過しました。厚生労働省は地域包括ケアシステムの構築と介護保険制度の持続可能性の確保を基本的な考え方として位置付けています。主な内容として、要支援者に対する介護予防給付のうえ訪問介護と通所介護を市町村が取り組む「新しい総合事業」に移行（2015 年 4 月から段階的に移行し、2017 年末までに全市町村で移行を終える）又、特別養護老人ホームの入所要件を要介護 3 以上に限定する（要介護 1.2 の要介護者は、やむを得ない事情があると認められる場合に特例として認める）など、更に利用者の抑制と給付の削減となっています。

国は地域包括システムの構築を目指していますが、地域ごとに高齢者像や事情は異なるため、各地域が独自で作り上げたり、資源の限られた地域では、特養が拠点となって動かなくてはならない状況です。したがって、今後の特養には、地域包括システムのなかでどのような役割を果たしていくかが問われています。従来の施設内だけのサービス提供にとどまらず、広く地域へサービス提供していくことが今後の課題となってきます。

このような情勢の変化に伴い、各市の高齢者保健福祉計画に沿って、社会の動向を注視し、各市と連携しながら、安定的した経営、運営を行うと共に、法人が持つ堅実性、多様性、専門性を発揮し、様々な介護・福祉ニーズに応えるべく、新たな取り組みも検討、実施して参ります。

これらの状況を踏まえながら、平成 26 年度も前年度に引き続き「利用者に対する基本姿勢」・「社会に対する基本姿勢」・「福祉人材に対する取組」・「マネジメントにおける基本姿勢」を平成 26 年度の取組課題として掲げ、専門性を地域の中でも発揮し、地域貢献を果たすことで、地域に評価されるように今後も取り組みを進めて参ります。

## 特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド

### 平成 25 年度事業所総括

#### 勉強会・職員のスキル向上・人材育成

特養勉強会の定着と外部講師などの導入により、専門性の高い研修が実施でき職員の資質の向上を図ることができました。具体的には県立淡路医療センターの認定看護師による感染対策について講義頂き、マニュアルの確認・改訂、掲示物を張替え職員に注意喚起を行いました。また口腔ケアでは外部講師に来ていただき、唾液の働きの重要性を知り、現在ではオーラルバランスやマウスウォッシュを使用した口腔ケアを行い、更なる充実を図っています。

#### 感染対策

感染症についてはノロウイルスの感染は利用者 0 名、インフルエンザの発症はショートステイで 1 名いました。職員やその家族にノロウイルスやインフルエンザの発症はありましたが、施設内に持ち込みすることはなく、施設内での感染は発生しませんでした。また感染対策の強化として、出勤時に職員が体温測定し、発熱時は病院受診してから業務に従事してもらうなどの対応を行い、効果がでたのではないかと思います。

#### 利用者 ADL 等の状態

平成 25 年度は退所者：19 名（前年度+5 名）、入所者 17 名（前年度+4 名）、入院者延べ人数：1026 名（前年度+339 名）と前年比に比べ多く、入所者の重度化が進んでいます。今後入所要件が要介護度 3 以上なれば今後ますます入退所、入院者延べ人数が増加すると思われます。今後入所者の重度化に合わせたハード面とソフト面の対応が不可欠になる為、更なる職員教育の充実、スキルアップが必要になると考えます。

#### 食事

栄養調理部での取り組みとして、普段とは異なる雰囲気での食事提供を目指して食フェスを実施し、結果、利用者から好評を頂き、来年度以降も続けていきます。

また部署全体で高い意識を持ち、他部署との連携も強化した上で、給食委託会社とどのように取り組めばよいかを考え、日々の食事に反映していきたいと思います。

さらに、栄養ケア・マネジメントを定期的に行い、利用者・家族のニーズに繋げていき、利用者の状態変化にも素早く対応できるよう、多職種・給食委託会社との連携に努めていきたいです。

#### 運営面

年間を通して、61 床のベッドに対しての稼働率 98%維持することが出来ました。利用者の重度化により、退所者・入院者が多かったにも関わらず、空きベッドを上手く利用することができました。また、施設での看取りを希望される方が年々増えている状況であり、6 名の方の看取りを行いました。ご家族より感謝の言葉を頂き、今後も利用者・家族のニーズに応えられる施設づくりを行いたいと思います。

### 兵庫式 24 時間 LSA 地域見守り事業

本年度 6 月より事業が開始し、新規事業ということもあり知名度が低い事、行政の協力がうまく得られなかったことにより、利用者数が伸び悩みました。そんな中、市内の居宅介護支援事業所への広報活動により、5 件契約に至ることができました。民生児童委員の会、いきいき百歳体操、介護者教室等での事業内容等の説明を行いました。問い合わせはあるものの残念ながら契約には至ることができませんでした。

さらなる知名度の向上、契約獲得に向けて、居宅介護支援事業所、行政との連携を進め、地域での広報活動に努めていきたいと思ひます。

### 平成 26 年度への課題及び展望

平成 25 年度は退所者：19 名（前年度+5 名）、入所者 17 名（前年度+4 名）、入院者延べ人数：1026 名（前年度+339 名）と前年比に比べ多く、入所者の重度化が進んでいます。

今後、入所要件が要介護度 3 以上なれば今後ますます入退所、入院者延べ人数が増加すると思われまひ。今後は入所者の重度化に合わせたハード面とソフト面の対応が不可欠になる為、平成 26 年度よりスキルツリー第 2 弾を開催し、利用者のアセスメント力、職員に伝える力、2 次障害を作らない介護技術の向上を図っていきたく思ひます。利用者の重度化、重度の方（身体的・認知）にも対応できるチーム作りを行いたく思ひます。

また今年度は同職種間や他職種間での情報の共有が上手く測れず起きたアクシデントが数件あり、また薬関係のアクシデントも何度も起こったことがあったため、今後職員間の連携を図ってアクシデントの軽減に努めたく思ひます。

## 津名デイサービスセンター

### 平成 25 年度事業所総括

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月まで、利用者から選ばれるより良いサービスを提供するため、介護知識・技術と接遇の向上、レクリエーションの充実を下記のように取り組みました。

- 職場環境を整え、教育・研修を推進し、職員全員で資格取得に向けて学習。
- レクリエーション委員会を設置し、ニーズに応じたメニュー開発。
- 開業医及び居宅介護事業所に利用者の紹介をお願い。
- 高齢者在宅等安心確保事業・被災高齢者自立支援事業・高齢者生きがい活動支援通所事業の担当者による情報収集と相談。
- 欠席者へのフォローアップ。
- 外食レクリエーション・買い物レクリエーションの充実。

本年度稼働率 87.88%、延べ利用者数 10539 人となり、昨年よりは上昇傾向にあり、7 月からは定員 40 名になり、これも個別機能訓練の充実を図り、業務の見直しをし、連携を図ってきたおかげと思われまひ。

## 平成 26 年度への課題及び展望

稼働率低下を防ぐため、今後は、サービスのマンネリ化を防ぐために様々な取り組みにトライし、多様化する利用者の個別ニーズに柔軟に対応できるようにサービス内容の継続的改善に努め、コンプライアンスに基づいた客観的、社会的、科学的なケアを目指しながら、津名デイサービスの特色と独自性を持った事業を展開し、体質を強化して参ります。

さらに、この数年の内に老朽化したハード面の見直しを行い、利用者がより快適に過ごしていただけるよう施設設備の改善にも努めてまいります。

介護保険制度の動向を把握し、改正後も稼働率の維持、対応ができるように体制を強化して行きたいと思っております。

## 高齢者生きがい活動支援通所事業

### 平成 25 年度事業所総括

今年度は、会話を中心としたコミュニケーションの図れる雰囲気作りに努めました。また、ADL維持という点からもゲームやクッキングレクリエーション・手芸・頭の体操を取り入れ、楽しく参加できるプログラムを心がけました。また、ドライブや外食など外出することにより、気分転換を図る等、個々の利用者様のニーズに合ったものを提供するように努めました。

生きがい利用者様も全体的に高齢化してきており、歩行不安定な方も増加してきています。生きがい利用者の中から介護認定者が増加してきているので、介護予防を念頭に置いたレクリエーションの提供の実行をさらに押し勧めました。

平成 25 年度 3 月で生きがいが廃止となりましたが、来年度から「ふれあいの集いちどり」が新たに新規事業としてはじまり、利用者が主体となりサービスを考え、参加できるよう支援していきたいです。

## 千鳥会居宅介護支援事業所

### 平成 25 年度事業所総括

介護サービスは高齢者の「生活の質」の維持・向上を目指しております。

その為に以下の手順をふまえ、高齢者自身がサービスを選択できるよう専門職が連携し、高齢者及びそのご家族を支援できるよう努めました。

- ① サービス担当者が利用者側の立場に立って、本人やご家族の希望を的確に把握する。
- ② その結果を踏まえ、関係者が一体となって【介護サービス計画】を策定し実施していく。
- ③ 要介護者の希望を尊重し、その人らしい自立した生活が送れるよう社会的に支援を行う。

平成 25 年度は、要介護者のケアプラン数が前年比+126 件増し、介護予防は前年比+26 件増になりました。毎月入院となり中止になるケースも多くなりましたが、千鳥会を選んでくださる新規のご利用者も多く、このような結果になりました。

住み慣れた地域でいつまでも生活できるよう支援しておりますが、高齢者夫婦、一人暮らし、認知症の方の困難なケースも多くなっています。ご夫婦、親子で支援させて頂いているケースもあります。

昨年度から始まった「広域支援員・専門職派遣事業」に今年度は 3 件のご利用者に対し、本人のできる事は何かを把握しながら、作業療法士、地域包括支援センターの保健師をはじめとした関係職員が連携を図りながら、認知症になっても住み慣れた自宅で生活を続けられるよう支援を進めてきました。

これから益々増えてくる認知症高齢者に対して、今後も上記の事業を率先して進めていく事が必要になってくると思います。

更に 25 年度は地域ケア会議にて積極的に事例を報告し、その方の課題のみならず、地域の課題にまで展開できるように図ってきました。

これからも部署内での伝達会議を実施し、職員の連携を図り、施設内外の研修にも積極的に参加を行い、どのような困難事例にでも対応ができるように各ケアマネのスキルアップを目指して行きます。

### 平成 26 年度への課題及び展望

今後も増えてくると予想される認知症の方ばかりでなく、障害を持った高齢者、特定疾患の比較的若いご利用者等の在宅支援を積極的に取り組み、専門医他関係者との連携を図ることでケアマネが認知症や様々な障害、特定疾患を理解することで一層寄り添った支援ができると思います。

法令を遵守し、自己研鑽に励み、介護支援専門員としての専門知識を身に付け、地域の方から選んでいただける居宅介護支援事業所を目指すとともに、高齢になっても住み慣れた自宅で自立した暮らしが継続できる事を目指し支援していきます。

## 千鳥会在宅介護支援センター

### 平成 25 年度事業所総括

高齢者とそのご家族及び地域住民の介護・生活支援・介護予防等に係る各種の相談・調整活動を通じ、高齢者の自立ならびに生活の質の向上を図ることを目的としています。

淡路市内に生活する高齢者が、要支援・要介護状態にならないよう個々の状況を把握し、住み慣れた地域で快適に安心して暮らせるよう、行政機関やサービス提供事業所と連携を図り、各種の地域支援サービスが利用できるように活動をしています。

平成 25 年度は前年度に引き続き、在介が中心となり、単に実態把握を行うだけではなく、一人暮らし高齢者を中心とした訪問を積極的に行いながら、緊急性の高い場合には地域包括支援センターの職員と同行訪問を行うことで、情報の共有を行うとともに、サービスにつなげられるように支援を行ってきました。しかし、介護保険を申請しても本人、家族の理解不足などでサービス利用につながらないケースや、逆に介護保険サービスの必要性が高いにもかかわらず、介護保険を申請していないケースも多くあるのが現状です。

また旧津名町地域のみならず北淡地域のケア会議や「包括・在介連絡会」「包括・千鳥在介情報共有会」及び各地域の民生委員児童委員協議会に毎回出席をすることにより行政や他の事業所との情報の共有を行ってまいりました。

また平成 22 年度より新しく開催された社会福祉協議会主催の「認知症をささえる家族のつどい」に毎月参加し、家族の声を傾聴することで、参加者の思いを共有することもできました。また、つどいの後に開催されるカンファレンスにて会の振り返りと今後の方向性について話し合いを行ってきました。

介護予防事業の一環として、いきいき 100 歳体操への参加を積極的に勧め、初回参加者に対しては会場まで同行することでご利用者の不安軽減と、次回につなげられるよう配慮を行いました。近くに会場がない場合は、民生委員や町内会と連携し新たな地域展開を行いました。今年度認知症サポーター養成講座を地域で行い地域での認知症への理解、地域力の向上にも取り組みました。今年度初めて淡路市社会福祉協議会主催の「福祉まつり」にも参加し、地域に当センターの広報活動を行いました。

### 平成 26 年度への課題及び展望

平成 26 年度も積極的に一人暮らしの方々を訪問または再訪問を行うことで、継続的に見守りを行い、孤独死、孤立死の予防と、高齢者虐待などを早期発見し必要な対応ができるよう、行政や他の事業所との連携、連絡を密に取り合っていくとともに、埋もれがちな住民の困りごとを地域で拾い上げ、必要な支援に繋げるしくみ作りを行うことを目指し、より地域に密着し誰もが住みやすい地域になるよう支援していきます。

## 家族介護者教室・家族介護交流事業

<b>平成 25 年度事業所総括</b>
<p>家族介護教室・家族介護交流事業は、在宅で高齢者の介護をしているご家族の方を対象に、介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなど介護の負担軽減に役立てていただけるよう配慮し、定期的を開催しました。</p> <p>介護の知識だけに限らず、介護者であるご家族の心身のリフレッシュを目的とした活動内容も取り入れました。日々の介護から解放され、また参加者同士悩みを共有することで、前向きになり参加を楽しみにしているという声も聞かれました。</p>
<b>平成 26 年度への課題及び展望</b>
<p>今後も介護されているご家族にとって、安らぎの場となるような活動に努めて行きたいと思えます。</p>

## 高齢者住宅等安心確保事業

<b>平成 25 年度事業所総括</b>
<p>安否確認、生活指導相談の件数は 9,690 件。前年度比+6,457 件。</p> <p>緊急出動 13 件、関係機関との連携 86 件、平成 24 年度に故障、不具合の修理を完了しましたが、県営中田住宅、市営津名北欧村、市営田井団地のうち県営中田住宅の誤作動が頻繁に発生しました。経年劣化による誤作動で高齢者住民が精神的苦痛を感じていることから緊急通報システムの入れ替えを兵庫県住宅供給公社に熱望しましたが、兵庫県の財政的に早急に対応は困難との回答でした。高齢にはシステムの要領が理解できず緊急通報の発生が増加した可能性もあり今後、高齢化に伴う対応が課題となっています。</p> <p>関連機関との連携、生活支援はこれからも必要であり、特に独居で身寄りのない方の緊急対応、救急搬送での付添い者の確保は急務であると考えています。</p> <p>安否確認、生活指導相談の件数は 9,690 件。前年度比+6,457 件。</p> <p>緊急通報による出動は前年度比+5 件となりましたが、救急搬送されたケースは 0 件で、内訳としては誤って鳴らしてしまった、水の止め忘れ、鍵のかけ忘れでした。住人の高齢化も進んでおり安否確認は必ず必要であると決定し、訪問は申請制から対象住宅の訪問が義務つけられました。年齢層は幅広く、就労中の方は安否確認が困難との問題もありますが、工夫し確認の継続をはかりたいです。</p>
<b>平成 26 年度への課題及び展望</b>
<p>平成 26 年度も問題解決の成功事例の更なる積み上げ、対応の円滑化に取り組み、また地域、関連機関との連携をさらに強化し、高齢者住宅入居者の孤立や生活問題の解決を推進することを目指すとともに、業務効率向上、業務適正化を継続実施していきます。</p>

## 特別養護老人ホーム ゆうらぎ

### 平成 25 年度事業所総括

ご利用者の状態を把握する事により、ご利用者の状態にあったケアが出来るようになります。ゆうらぎのご利用者の状態は以前と比べ大きく変化してきており、今年度は 24 時間シートを活用し利用者の情報把握に努めました。その結果、ご利用者の一人ひとりの状態に合わせたケアに繋げる事が出来ました。

また、外部講師による勉強会や P T による技術指導を実施した事により、昨年と比べ大きなアクシデントの減少や、特に褥瘡に関して今年度は 1 件も発生しておりません。

また行事においても、今年度は利用者の状態に合わせ見直す事が出来ました。日帰り旅行は、ゆうらぎ全体で 1 度に参加するのではなく各フロアにて参加、敬老会はホテルでの外食から、家族の意見も頂き、施設内で実施したことで、ご利用者に負担なく良い行事を行う事が出来ました。

地域との交流事業では、今年度新たに兵庫県立洲本高等学校被服部の方にご利用者の車椅子カバー等を作成して頂き、作品を通し交流を深めたことにより、福祉に興味を持って頂く良い機会を増やすことができました。

今年度は、今までのケアや行事等のあり方を見直した事により、より満足して頂ける施設作りが出来た年となりました。

### 平成 26 年度への課題及び展望

- ・ 24 時間シートを有効活用し、利用者個別の状態・情報を詳しく把握し、利用者個別に応じたケアを提供していく。また、福祉用具の有効活用を行い安全で安楽に過ごして頂ける生活作りを目指す。
- ・ 現在行っている取り組み・行事に関して、利用者の要望に応じた内容への転換。
- ・ 介護技術向上を主とした職員育成のシステム作り
- ・ 利用者のポジショニング等の知識を習得し、褥瘡ケアを行い褥瘡者 0 を目指し、QOL 向上に努める。
- ・ 在宅にて生活されている高齢者の福祉ニーズを居宅ケアマネとの連携により把握に努め、家族が希望するショートステイサービスの展開と実施を目指す。
- ・ 地域が実施する行事への参加、また学校行事への参加を行い地域住民との交流を図る。洲本高校生との交流の継続。
- ・ リーダー面談を毎月実施し課題の抽出・解決に向けて一体となって取り組み、リーダー育成に力を入れ、リーダーが中心となるユニット作りを目指す。
- ・ 会議体の内容を見直し、積極的に意見具申できる環境作りを行う。
- ・ 施設全体が一つになり、他職種との連携が密に図れる事業所作りを行う。
- ・ 外部講師を積極的に招き、意味のある勉強会を提供し知識習得に励む。
- ・ ショートステイ稼働率維持・向上を目指す。
- ・ 消費税増税に対する介護報酬の改定について情報を把握し、家族に説明し適正な運営ができるよう努める。
- ・ ユニット費の有効活用を実施し、無駄な購入は避け経費削減に取り組む。

## 養護老人ホーム 北淡荘

### 平成 25 年度事業所総括

平成 25 年度は、北淡荘利用者の自立心向上を図る事を主として取り組みました。日常の生活を送るなかで、自分でできる事は自分で行い、できない事を支援し、自立支援の場としての養護老人ホームの原点を顧み、それぞれの職種で取り組みました。

施設内の美化活動や行事は、利用者の主体性を尊重しました。

健康面でも自立を促し、健康管理意識も向上されました。自立心が向上する事により、業務の効率化にも結び付き、要介護者が増加するなかで、昨年同様に、安心、安全な環境づくりにも繋がりました。

また、選ばれる施設となる目標を立て、養護需要者の発掘にも努め、民生委員との交流や、医療関係者への働きかけも行いました。

### 平成 26 年度への課題及び展望

平成 26 年度も引き続き、北淡荘利用者の自立心向上を図る事を主として取り組み、自立支援の場として事業を行うと共に、昨年度より、行政の措置控えか、養護利用依頼の減少も出てきており、養護職員自らが地域に出向き、福祉ニーズを把握し、生活困窮者の状況確認や、新規養護利用者の発掘を行い、福祉の拠点としての役割を果たしていきたいと思っております。

## ゆうらぎデイサービスセンター

### 平成 25 年度事業所総括

平成 26 年 3 月 31 日をもって 7 年間デイサービスの事業を行ってきました。

7 年間事業を実施してきた中で、地域の方からの認知・信頼も獲得し、ご利用者が増加してきました。増加した要因には、同じ地域にある通所介護事業所の規模や定員が限度というのもあり、ゆうらぎデイサービスへの需要が更に高まっていることも実感しています。

夏季も昨年ほど入院される利用者の方もなく、これも日頃より水分補給の大切さ、健康管理について皆さんにお話しさせていただいた賜物ではないかと考えています。

今後ますます増える 1 人暮らし・老老介護をされている在宅サービスの現状をしっかりと把握し、少しでも個々のニーズに応じたサービス提供が出来ればと思っています。

それに代わる新規利用者の獲得は年間で 71 名となり、1 か月平均で 5.9 名となっています。昨年に比べると倍近くになっています。その中で職員と利用者が一緒になり、創作活動や新たな取り組みなどにも力を入れ、喜んで頂ける方も増えてきました。

この結果として、本年度稼働率は 93.1%、延べ利用者数は 12,413 人となりました。前年度の年間実績から比べても、延べ利用者数はプラス 2,093 名となっており、1 か月平均約 174 名の増加となっています。

25年8月からは定員を40名から45名に変更したことにより、新規利用者も急激に増え目まぐるしい日々が続きましたが、その中で職員が一丸となり、利用者の方にどう過ごして頂くかを考え、実行してきた結果が、利用者増につながり、職員個々の自信ができてきました。

#### 平成26年度への課題及び展望

平成26年度は下記の目標を設定し、職員一丸となり更なる利用者の確保を目指します。

- 増加する利用者に統一したサービスを提供していく為に、施設内部・外部への研修の参加・他事業所への見学を行う事で、自事業所の質の向上を図ります。
- 各職種の能力を高める為に、資格取得を図ります。
- 事故を未然に防ぐ為に、職員間で情報の共有を図っていきます。
- 利用者の普段口にされることの無い声を吸い上げ、顧客満足に努めます。
- 現在のサービスを満足とするのではなく、新しいレクリエーションへの取り組みを行います。
- より個別性を高め、個々との関わりを密にとっていきます。
- 地域との関わりも今後は、より深めていきます。

以上の点について今年度より、ゆうらぎデイサービスセンターは取り組み、体制の強化を行っていきます。

## ゆうらぎ居宅介護支援事業所

#### 平成25年度事業所総括

事業所開設より7年目となった昨年度は、年度初めから介護支援専門員の体調不良が続き、利用継続している利用者に事業所変更による負担をかけない為、給付制限を超過してしまう月もありました。しかし、徐々に落ち着きを取り戻し地域からの需要に対し安定したサービスを提供することができたと感じております。

給付件数は、月平均の給付件数が H24年度、約75件 → H25年度、約74件と施設入所や亡くなられた方が増えて、やや減少傾向となっています。

事業所への依頼経路としては、前年度に比べ電話や来所での直接相談があるケースも増え、さらに『ゆうらぎを希望している』と地域包括支援センターからの紹介による引継が主だったことから地域介護相談窓口として機能し始めていると感じております。

又、介護支援専門員の体調不良・産休に伴う異動があり、担当が変わる事で利用者との信頼関係を崩さないように慎重に環境を調整し、加えて認定調査受託件数を減少させ業務の適正化をはかりながらも、北淡地域連絡会やケアチームほくだん（医療機関主催による各職種合同の連絡会）への出席など、地域や関係機関とも協力しながら事業を推進して来ました。

## 平成 26 年度への課題及び展望

独居高齢者、高齢者世帯など少子高齢化が進む淡路市の顕著な地域事情において、地域全体で見守りや支援体制を築くことがより強く求められている状況下です。

これからも、各関係機関や地域住民とのつながりを重視しながら、利用者個々人が住み慣れた地域や環境で生活が継続できるような援助方法を模索、提供できるよう事業所として努めていきたいと考えています。

地域のニーズに十分な対応がはかれるよう、平成 26 年度は事業所 3 名体制を安定したものにし、前年度以上の業務の安定化と適正化、介護支援専門員個々の力量はもとより事業所としてのサービスの質の向上を図っていきたいと考えています。

今年度も地域のニーズ応需、事業所運営の両面を実行していくために、地域実情の十分な把握、適切な目標の設定、中長期的な視点に立った事業運営を各方面に理解を得ながら進めていきたいと考えています。

## ゆうらぎ訪問介護ステーション

### 平成 25 年度事業所総括

在宅で暮らしている方々の思いや悩みに寄り添いながら援助はこれでいいのかを考え、介護支援専門員や地域の方々、他の在宅サービスと連携しながら仕事をする 1 年となりました。

訪問介護員は、在宅を常にひとりで訪問しています。アクシデントが発生した時にどのように対応していくか、こんな時はどうしたらよいかを咄嗟に判断しなければなりません。そこで今年度はそんな時の対応をどうすればよいかの知識を習得するべく勉強会や、研修に参加してきました。研修だけでは実行に移せないこともあります。知っている、経験したと言うだけで行動に移せる事もあります。訪問介護員からは勉強会に参加してよかった、役に立った、再確認ができたとの声を聴いています。

また、報告、連絡、相談を今年度は主に取り組んでまいりました。職員が安心して訪問できるように今後も実施していこうと思います。

### 平成 26 年度への課題及び展望

独居高齢者、高齢者世帯が増え続けている中で、認知症高齢者（日常生活自立度Ⅱ以上）もさらに増え続け、高齢者の全人口に占める割合は着々と増えています。今後、急速に高齢化が進む中で「介護」「医療」「予防」という専門的なサービスとその前提としての「住まい」と「生活支援・福祉サービス」が相互に関係し、連携しながら在宅生活を支えていきます。

在宅生活すなわち「住まい」を実現できるようサービスも多様化しており、そのサービスの補完として保険外サービスが求められる事が必要となってきたのが現状です。

訪問介護ステーションとしての訪問介護は保険外、保険利用も含め極めて複雑で保険、自費双方の適正な取り扱いについては十分な理解が事業所を含め利用者にも必要と思われます。その自費サービスの実現に向け平成 26 年度は取り組んでまいります。

あわせて業務を法令遵守の視点で確認、事業所全体のモチベーションを高める事もさらに力を入れていきます。そのためには人間関係形成技術（コミュニケーション等）も大切です。自費サービスの実現に向けもっとも重要なのは人材確保であり、訪問介護員の増員は必要不可欠であると思われます。

## グループホームしおさい

### 平成 25 年度事業所総括

地域密着型の施設として、ご利用者を地域に暮らす住民としての視点から、ご利用者と地域住民との関わりを大切に考え、個々の尊厳を守る事にも重視してきました。地元である郡家地区の 2 つの高齢者サロン活動や、いきいき百歳などへも、本年度も地域の高齢者の住民と同じ立場で参加することでの交流や、かつ社会参加に繋げられるように行いました。私たちの基本の考え方は変わりません。ご利用者は、「認知症高齢者である人だから、しおさいに入っている人」の立場ではなく、「同じ郡家地区に生活している地域住民（但し、支援を必要とする弱い立場の高齢者）」として接しています。また、地元住民の方には、しおさいは開設後 10 年を迎えようとしており、しっかりと認識されています。日常の生活では、月毎の行事、季節の行事を通して楽しみや、いきがいを感じつつ、社会参加に繋げられるように配慮しながら行いました。職員においては教育訓練、法人内の研修により資質向上と、スキルアップに努めてきました。防災面では、淡路広域消防の指導の元、（夜間想定）避難誘導訓練及び、心肺蘇生訓練また自主避難誘導訓練も実施しています。

### 平成 26 年度への課題及び展望

26 年度に於いても、職員がチームとして協働することで、ご利用者が地域住民として利用者本位のサービス提供に努めていきます。

地域社会の観点からは、地域福祉の推進の重要な社会資源としての自覚を持ち、グループホームとしての役割を果たす事に進んでまいります。

また、地域との交流として、26 年度には、旧一宮町に於いての 3 つの小学校が統合し、郡家に新たに「一宮小学校」として開校され、また、新しく統合され「保育園」もできる事から、今後の子供達との交流の機会を持てるように考えています。

防災面では、南海トラフ地震発生時の津波の災害に備え、ご利用者の安全を第一とし、地域の避難場所の周知を図っています。いざと言う時に慌てないために、必ず起こるものとの日頃から意識し、危機に備えていく所存です。

## しおさいデイサービスセンター

### 平成 25 年度事業所総括

平成 25 年度は、ご利用者が 2 名新規での利用となりました。どちらもご家族と同居されおり、地元の社会福祉協議会、居宅介護支援事業所からの紹介であり、しおさいデイサービスを利用する事で、ご本人の他者との交流や、社会参加、ご家族の介護の負担軽減に繋がり、ご本人、ご家族共に喜ばれる結果となっています。

但し、10 月には、1 名が状態の変化により入院し、現在も入院中となっています。また、1 名が 2 月後半から自宅での転倒により入院され 3 月中も入院となっています。4 月当初には退院できる予定です。3 月 31 日現在、実利用者 4 名での運営となっています。

### 平成 26 年度への課題及び展望

26 年度においても、グループホームの共用型サービスとして、家庭的な雰囲気のあるサービスを提供し、ご家族、ケアマネージャー、医療機関との連携を図り、ご利用者が引き続きしおさいデイサービスを安心して、かつ楽しく利用できるよう、ご利用者本位のサービス提供を続けながら、かつご家族への支援にも繋がるように努めていきます。

ご利用者の個人を尊重し、社会参加と交流を継続する事で地域での孤立化を防止し、かつ現在の住み慣れた自宅での生活を継続できるよう、職員一同のチームケアで支援し、努力していきます。

## 小規模多機能型居宅介護事業所 んくもり

### 平成 25 年度事業所総括

平成 25 年度は、個別ニーズの把握と理解に努め、ご利用者・ご家族とのコミュニケーションをしっかりと図ると同時に、ご利用者が「安心・安全」して過ごせる環境をつくることに力を注いできました。

また、ご利用者・ご家族に信頼されるよう、ご利用者一人ひとりの多様な生活に対応した柔軟なサービス提供と、ISO による継続的改善に努めて参りましたが、ご利用者の加齢に伴う重度化により、死亡、入院、長期施設移行が重なり、前年度平均登録者稼働率 83.3%に対して、今年度平均登録者稼働率 80.0%、前年度比-3.3%と低下、収入も前年度を下回りました。引き続き、関係機関との密なる連携及びサービスの質の向上に取り組むことで、経営の安定化に努めて参ります。

地域との連携については、随時見学者・相談者・ボランティア(花壇作り・手芸・音楽)・研修生の受け入れ、消防訓練・運営推進会議(2ヶ月毎)の実施、地域の祭り・図書館・学校行事等への参加、日常的な買い物・通院・理美容・散歩等により、居宅介護支援事業者・住民からの問合せも増え、地域福祉の拠点としての役割も図れたかと思われま。

### 平成 26 年度への課題及び展望

平成 26 年度も、ご利用者に満足して頂けるよう「安心と安全」を最優先とし、職員の人材育成と経営の安定化に努め、法令の視点からサービスの質の維持・継続を図り、地域住民、行政や関係機関及び各事業者、インフォーマルサービスと連携・協力し、地域の皆様の期待に応えられるよう、身近な必要とされる事業を展開して参ります。

## 佐野デイサービスセンター

### 平成 25 年度事業所総括

利用者のサービスの質の向上を目指して、個別性を重視したレクリエーションや季節感を取り入れた外出行事を実施することにより定員 20 名から 24 名になりました。

今年度の新しい取り組みとしてボランティアの毎月慰問を実施したことは利用者から好評を得ました。

地域に開放された施設づくりとして、いきいき 100 歳体操、佐野デイ秋祭り開催、そして佐野小学校校、佐野保育園児との交流会を実施しました。

今後は職員間での連携を図り、佐野デイサービスセンターの単独事業所ならではのできることを模索し実施していくことに努めます。

### 平成 26 年度への課題及び展望

今年度は、1 日平均 24 名（稼働率 100%）を目指すことにより財政基盤の安定を図ります。財政基盤の安定を図るには利用者の継続するサービスの充実が必要であり、集団と個別レクリエーション、外出行事の見直しを行います。

又、利用者アンケートを実施することで利用者ニーズの把握を行い、平成 26 年度は 1 日平均 24 名（稼働率 100%）を目指し、単独事業所ならではのできることを模索し実施していくことに努めます。

## 地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ

### 平成 25 年度事業所総括

開設から 2 年目を迎え、ご利用者の生活リズムに応じたケアを深めるサービスの質の向上、開かれた施設となるよう地域交流の推進、介護の基本を習得して力量の向上を図る職員教育、安定したサービス利用の確保・経費削減を目標に取り組みました。

質の高いサービスの提供に関して、介護サービス計画に 24H シートを反映させ、更新時には各職種によるアセスメントを実施し、各専門職から見たニーズの把握、多職種参加によるご家族とのカンファレンスを開催することで、施設でのケアや取り組みをご家族の方に理解していただく事へと繋がりました。

食に関する取り組みとしては、朝食への真空調理の導入・活用に取り組み、ユニット毎に3グループに分ける事で、ご利用者の起床時間に合わせて温かい食事を提供出来る時間が広がり、ご利用者の生活リズムに沿ったサービスの提供に繋がったと感じています。

認知症ケアについては、職員が外部研修に参加し、各ユニットのご利用者にあったケア内容を検討し、取り組みを開始しました。今後は定期的な効果の確認等行いながら、ほほえみとしての認知症ケアを確立していきたいと思えます。

アクシデントについては、行政へ報告した事例も数件発生しましたが、昨年度と比較すると減少しており、今後も事故予防に努めていきたいと思えます。

地域との関わりについては、昨年同様にギャラリーの展示、いきいき100歳体操への会場提供の中で、看護職員がいきいき100歳体操参加者への健康相談を行う事で、参加者の方にも喜んでいただく事ができました。春祭りは地震の影響で中止となりましたが、9月に昭和をテーマにした敬老祭を開催し、たくさんの地域の方に来ていただくことが出来ました。また、地域の小学校とのつながりも徐々に出来、学校行事へのご利用者の参加、ほほえみでのご利用者小学生の交流会を開催することが出来ました。地域に開かれた施設づくりに向け、今後も取り組んでいきたいと思えます。

職員への教育に関しては、介護技術向上チームを立ち上げ、各職員の介護技術テスト、マニュアルの見直し等、介護技術の基礎の教育に取り組みました。

また、看護職員から緊急時の対応、ノロウィルスに関するテストを実施し、医療面についての教育にも取り組みました。

今後も職員全体のレベルアップを目指し、職員間の連携を強化し、離職者が出ないように取り組んでいきます。

運営面に関しては、長期・短期ともに、年間を通して平均98%近くの安定した稼働率を確保出来ました。部署毎に経費削減に取り組みましたが、各職員のコスト意識の向上が課題だと感じました。

#### 平成26年度への課題及び展望

今年度は、特養内の組織体制の変更、介護職員の異動を予定していますが、ご利用者にご迷惑をかけることなく、スムーズに移行出来るようにしたいと考えています。

また、これまで以上に部署内、部署間での情報共有力の向上と共通認識を高め、ご利用者個々に合った質の高いケアを長期的に安定して提供出来る様に努めていき、ご利用者との行事や外出、サークルなどを通して地域の方々との交流を深め、地域社会の中で『ほほえみ』の存在価値がより高まるよう、積極的にアプローチして行きたいと考えています。

## 千鳥会デイサービスセンター ほほえみ

### 平成 25 年度事業所総括

平成 25 年は、開設から 2 年目の年です。地域にほほえみが馴染んできた年でもありました。また、利用者人数の増加も 1 年を通して見ると新規利用者が毎月有り、地域・福祉・医療関連との連携が図れたと思います。その中、施設周知を目標に掲げ利用者に必要とされるサービスの提供を下記のように取り組みました。

- 職場環境を整え、教育・研修を推進し、職員全員で安心・安全なサービスの提供。
- 利用者ニーズの把握。(第一印象の大切さを職員に周知し続けた。)
- 地域行事参加(聖智学園・浦小学校など)の連携による地域への周知。(クリスマスなど)
- 開業医及び居宅介護事業所(パンフレット作成、持参)
- ほほえみ敬老祭を通して施設の地域開放と交流。(いきいき 100 歳体操で施設を開放。)
- ほほえみデイ全利用者対象・ふれあいサロン開催(昼食:バイキング実施)
- 利用中止者へのフォローアップ。
- 季節ごとに外出レクへのこだわり。(淡路島公園:園内を車にて乗り入れ)
- 誕生日を 1 人ずつ写真入りのカードでお祝い。・四季の行事の取り組み
- ご利用者に合わせた食事形態の充実
- 手作りおやつ提供(職員:担当制)
- 調理レク(毎月・曜日を変更し、毎週実施)
- 昼食レク(鍋など食べたい物のアンケート結果の昼食を一緒に作り食べた。)
- 園芸レク キュウリ、トマトなどを育て、調理レク(サンドイッチ・酢の物)で試食。
- 年間レクリエーション計画
- 特別支援学校卒業生の入社受入れ

昨年に引き続き、今年度もサービスの基本である、第一印象の大切さと刺激的で印象に残るようなサービスを提供して行こうと職員同士で決め、スタートしました。

25 年度は昨年に比べご利用者数も増加し、4 月の段階で定員 15 名、1 日平均 10.23 人と目標より良いスタートを迎える事ができました。これも地域にほほえみという施設が周知されてきた結果だと思えます。

更にデイサービスとしての事業所を知ってもらうためにはほほえみチャンネル(広報誌)のなかで積極的に取り組みを紹介し、居宅事業所などに配布し、ご利用者の説明時に配ってもらい事業所を知ってもらう機会となりました。

また、年間行事・レクリエーションプログラムを充実させることでご利用者に楽しんでもらうこと、紹介もいただきました。

その結果、1 年を通して見ると新規利用者が毎月あり、周りから良い評価がいただけたと思います。

職員も 2 名増え、内 1 名は特別支援学校卒業生で介護職員として自立に向けた取り組みとして個々のプログラムを設け、ご家族・ジョブコーチらとのカンファレンスで今後の目標もでき、少しずつ成長してきています。

利用者数が増え 10 名を超えるなかで介護度の高い利用者の受入れも増え、職員の戸惑いもありました。その中、1 年を通して毎月、看護師が講師になりご利用者の病種・対応の仕方について部署内勉強会を開催した結果、職員の知識や技術も増し利用者への気づき（インシデント）が増え、ご家族から喜びの声もいただきました。

行事に関しては地域交流にも重点をおき、地域の小学生や児童養護施設とも交流する機会をもちました。ボランティア委員会でリストを作成し、更なる機関・団体との地域交流へと今後に繋げていきます。（中でもクリスマス会は好評でした）

レクリエーションも利用者介護職員による手作りの作品がたくさんでき、利用者も喜んでご自宅に持って帰り玄関などに飾っていました。

また、アクシデント・予防・是正に関する事としましては、5 月から 9 月までデイサービスでは公用車の事故（ブロックなどに擦るなど）が立て続けにありました。分析をしてみると無理な侵入などがありました。その後の対策として、アセスメント時に車両スペース・車種の侵入不可を確認する様にし、毎朝の部署朝礼時に安全運転の確認を行う事で事故も無くなりました。

収入面では高く目標設定していた為、目標そのもの達成はできませんでした。

また、定員 20 名、1 日平均 20 人には、少し及びませんでしたが高齢利用者も増えており、現在の定員 25 名に至っています。

来年度は、目標 1 日利用者数平均 30 名を目指し、分析（月の必要利用者数など）を行い運営面だけでなく職員がご家族と話し合う機会を増やし、記録に残していき他職員への水平展開を図り、技術向上とサービスの質の向上や意識向上に繋げていきます

#### 平成 26 年度への課題及び展望

今年度は、様々な新行事・レクリエーション計画表、等で職員一丸となれた年でもあり、部署内での人間関係も問題なく過ごせたと思います。その結果、新規利用者も毎月あり、利用者同士の紹介も数名ありました。

また、他の居宅事業所から千鳥会は色々行事ごとを考えているので利用者も喜んでいすと言う声も聞こえました。（千鳥会・他デイも）今後も驕らず、初心を忘れず進めていきます。（来期も新行事を増やす予定です。）

数字面では目標設定を高く設定していた為、達成はできませんでしたが高齢型から通常規模型に変わる為、今まで以上に新規獲得に意欲を持ち、行っています。

また、5 月より OT 導入により加算も増えますので今後は加算関係にも目を向けていきます。26 年度は、定員 30 名以上・1 日平均 30 名を目標に設定し行動に移していきます。

## 小規模多機能型居宅介護事業所 ほほえみ

### 平成 25 年度事業所総括

開設 2 年目にあたり、事業所としてのサービスの質、安定した運営体制の両面から取り組んできました。

サービス面に関しては、小規模多機能の通い、泊り、訪問のサービス形態ありきの対応ではなく、利用者家族個々の思いや価値観を理解し、事業所としてその生き方に沿った支援が提供できることを第一に取り組みをすすめてきました。

具体的には数名のご利用者にご焦点をあて、再アセスメントを実施。家族や関係機関の協力も得て、利用者の生活歴や価値観を把握し、人生記のようなものを作成、共有する場を持ちました。

職員間で互いに意見や感想を述べ合い、利用者本人はもとより長い人生の過程での家族の思いも知ることができました。職員がご利用者家族の思いを知ることで、日々の業務や対応に気持ちの余裕が持てるようになったかと感じます。今後ともこの機会は継続して持っていきたいと考えています。

運営面としては、安定した事業所運営の目安である登録者数 20 名を目標より早く、8 月に達成することができました。以降も登録者数 20 名以上を維持できています。これも事業所としての上記の取り組みや姿勢が利用者家族、関係機関に理解が得られ、相談依頼に対して個々のケースに寄り添う対応を積み重ねてきた結果かと自負しています。

今後の課題としては、職員一人一人のスキルアップは勿論、事業所として支援の方法や手段を確立し、事業所そのものとしてのスキルアップを図っていききたいと考えています。

現在でも、サービス拒否がある利用者に対し、利用者事業所との信頼関係づくりのため、訪問を継続。その訪問の中で、次のステップの支援へとヒントを探り、新たな訪問支援や必要な通い、泊り利用へつなげていく支援方法がこの 2 年間でも 6 件ほどありました。事業所としての一つの主たる支援方法となりつつあり、関係機関から地域において期待されている役割とも強く感じています。

今後もこの支援方法を深めるとともに、他のモデルとなる支援方法も確立できるよう努め、事業所としてスキルアップに努めていききたいと考えています。

小規模多機能サービスとして通い、泊り、訪問を組み合わせた柔軟な対応は勿論、個々の利用者の望む生活や生き方に焦点をあてた個別の取り組みや介護、生活支援を提供していければと考えます。

### 平成 26 年度への課題及び展望

小規模多機能サービスでは一職員が利用者の自宅、事業所、地域での暮らしを把握、支援していく必要があります。より深く利用者家族の思いや価値観を理解することが必要です。

またその個々の支援に必要な制度や利用者背景にも知識を深め、モチベーションを高めることが大きな課題と感じています。

課題の向けた取り組みとして、小規模多機能ほほえみに登録されている利用者支援に必要な勉強会を月 1 回実施していきます。具体的には利用者が活用している権利擁護等の制度、疾患等の病識などの勉強会を実施します。

また利用者家族の生き方、価値観を理解するために、過去の生活歴を利用者・家族・関係機関から聞き取りをし、共感する場も持ちます。これらを年間計画をたて、隔月で実施します。

職員個々が専門職としてのより一層のスキルアップに努めます。開設 3 年目を迎え、より積極的な支援方法が一職員から提案、実施できるようにしていきます。

## ほほえみ居宅介護支援事業所

### 平成 25 年度事業所総括

開設 2 年目を迎え、4 月には要介護 14 件、要支援 3 件からの始まりとなりましたが、9 月には要介護 21 件、要支援 4 件と順調に担当させていただき、平成 26 年 1 月には要介護 30 件、要支援 6 件となりました。その中で昨年総括にも掲げたように「ほほえみでお願いします」と来所して下さった方も多くありました。

また、いきいき 100 歳体操を通じて「ほほえみ」を知っていただく事ができ、地域の方との交流も広がった 1 年だったと感じています。現在も 1 人ケアマネジャーとして皆さんの支援をさせていただいておりますが、今後も初心忘れず、皆様が住み慣れた地域で自分らしく生活が送れるように支援を心がけていきます。

いきいき 100 歳体操については「ほほえみ」施設を提供し、約 1 年と 6 ヶ月が経ちます。当初、ほほえみのご利用者と一緒に行っていましたが、現在は地域の方のみでされており参加される方も徐々に増えてきています。

また、今年より月 1 回（第三水曜日に）ほほえみ看護師による健康チェックと健康相談を始められています。体操前に身長（初めての利用の方のみ）と体重、血圧や脈拍を測定します。体操後に測定の結果や看護師が気になった事やご利用者が気になっていることなど相談できる時間を設けています。

ほほえみ施設のご利用者支援としては、ご入居者の「外でコーヒーを飲みたい、モーニングに行ってみよう」とのご希望を聞き、昨年の 5 月より月 2 回、1 階の多目的スペースを利用し「ほほえみ喫茶」を開催しました。

また、「同じほほえみのサービスを利用しているのに会って話をすることができない」とのご利用者の声や職員にもご利用者の違う一面を見てほしいとの思いから、昨年は岩屋地域のご利用者や岩屋地区在住・出身の職員が集まり、岩屋サークルを開催しました。

そのサークルでは、施設内の多目的スペースで昼食を摂りながら昔の写真を見て、「懐かしいよ」「ここで運動会したんよ」「ここは遠足で行ったな」「こんな校舎やったわ」とご利用者が言うと、職員の「わたしらは知らへんな」との言葉に、ご利用者は「そらそうや」と大きな笑声が響き昔話に花が咲きました。また小学校の校歌をみんなで歌い涙するご利用者や運動唱歌は楽しそうに手を挙げて音楽に合わせて踊っておられるご利用者もいて、皆様に昔を懐かしんで頂けたと思います。

今年は新たに東浦地区のご利用者の集いと第 2 回目の岩屋サークルを予定しています。

また、外部ボランティアによる「ふれあい交流会」も年に2回行い、阿波踊りとカラオケコンサートを披露していただき、ご利用者からは「楽しかった」「よかった」「こんなのいつも見られるもんじゃない」などのお言葉をいただき、楽しいひと時を過ごしていただきました。

この1年は担当するご利用者だけでなく、地域の方やほほえみ施設のご利用者との交流を多く持てる年になりましたので、来年度も今年とは少し違った工夫で皆さんに喜んでいただけるような1年にしていきます。

#### 平成 26 年度への課題及び展望

居宅介護支援は昨年同様、ご利用者が住み慣れた地域で少しでも長く生活を送っていただけるよう支援すると共に、困りごとなどの相談が安心してできるケアマネでありたいと思っています。

また、地域交流について、昨年度は、ほほえみに生徒達が来て頂くことが多かったのですが本年度は、ほほえみのご利用者が保育所・小中学校の行事に参加させていただき、昨年度以上に交流を深める事ができれば考えています。